

令和2年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

平均正答率

(単位 %)

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小	65.0	64.5	54.1	68.4	63.3	59.4
埼玉県	64.3	62.1	58.8	64.2	61.7	59.0

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		深谷小	埼玉県	深谷小	埼玉県	深谷小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	82.1	81.9	90.5	84.4	96.4	87.8
	・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができる(小4) ・自分からはっきりあいさつをすることができる(小5、小6)	94.0	77.0	92.9	76.7	91.5	76.8
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	89.5	84.7	90.5	86.3	93.9	84.0
学習習慣	・学校の宿題をしている	95.5	95.5	91.7	95.5	98.7	96.4
	・学校の授業の予習や復習をしている	77.7	70.1	75.0	70.0	79.2	72.4
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している(塾等を含む)	70.1	57.7	72.6	62.3	74.4	68.4
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	77.6	69.2	66.7	65.1	54.9	58.6
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	95.5	87.3	95.2	88.9	93.9	90.0
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	76.1	73.7	70.2	67.9	81.7	63.5
その他	・自分には、よいところがある	86.5	77.2	79.7	74.5	87.8	75.7
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	94.0	80.4	84.5	77.9	86.5	76.0
	・将来の夢や目標をもっている	91.0	86.5	89.3	86.3	91.4	83.2

深谷小の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

【国語】

○4年…敬体・常体の不統一を正し、より良い表現に直して書くことができた児童が75.0%で県の正答率を19%上回った。困難度レベル7-Aの問題「説明する順番を考える」設問について、県の正答率を12%上回った。

○5年…3領域共に県、市の平均正答率を上回った。書く能力を図る問題の正答率が57.1%で、県、市の平均より13%以上上回った。記述式の問題の正答率は39.3%で、県、市の平均より16%以上上回った。

○6年…困難度9-B記述式の問題「資料を根拠にしながら、自分の考えを明確に書く」では、45.1%の正答率で県平均を4%上回った。無回答率も7.3%と低かった。

●4年…辞書の正しい使い方を理解する問題の正答率が27.9%と低かった。主述の構成を考える文法問題の正答率は58.8% 44.1%と共に低かった。

●5年…修飾・被修飾の関係を理解する問題では正答率が25.0%と低く、県平均を10%下回った。

●6年…文の構成を理解する、修飾・被修飾の関係を理解するという文法問題に課題があった。

【算数】

○4年…コンパスを用いてかいた模様から、どこにコンパスの針をさしたかの見当を付けることができる児童が69.1%であり、県、市の正答率を20%上回った。唯一の記述式の問題も64.7%が正答しており、県、市の正答率を10%上回った。

○5年…概数の意味や概数にする方法について理解している児童が72.6%と高く、県平均を15%上回った。

○6年…2本の平行な直線で作られる三角形について、面積を求めることができる児童が73.2%で、県、市の平均を17%上回った。

●4年…2位数に1位数をかける乗法の計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを用いて問題を解決できる児童が45.6%で県平均より7%下回った。

●5年…伴って変わる2つの数量の表し方を考えることができる児童が51.2%と低く、県平均を13%下回った。

●6年…合同な三角形のかき方を理解している児童が4.9%と低く、県、市の平均を7%下回った。

【質問紙】

○全ての学年において、殆どの項目について肯定的回答が埼玉県平均値を上回っている。

○特に「あいさつ」についてはどの学年も15%ほど高く学校全体の取組として定着している。

○6年生において、将来の夢や希望をもっている(91.4%)児童の割合が多く、また、自分にはよいところがある(87.3%)という自己肯定感の高い児童が多い。

●「勉強が好き」と回答する児童が77.6%、66.7%、54.9%と、学年が上がるにつれて低い数値となる。

課題への取組・改善策

【国語】

・朝のチャレンジタイムで、自分の考えを記述する問題を多く取り入れ、条件に合った文章の書き方を学ばせていく。他教科とも関連させ、根拠を持って自分の考えを説明させる場面を意図的に設けていく。

・学期末の検定だけでなく日々の小テストからも支援が必要な児童を見つけ、早い段階で個別に指導していく。

・課題のあった文法問題について学習する場面を増やし、定着を図る。

【算数】

・のめりこませる導入の工夫、発表・検討の工夫、児童の思考のつなぎを意識して授業を行う。

・少人数指導を積極的に取り入れ、個に応じた指導をよりきめ細かく行い、各層の児童の学力を伸ばす。

・算数コーナーなどを有効利用し、既習学習の反復に役立てたり、長文の読解、問題の問いが何かを見極めたりする問題を繰り返し行う。

【その他】

・該当学年だけでなく、既習学習も想起させるような学習を家庭学習等で取り入れていく。

・ねらいやまとめ、振り返りの活動が明確である授業、板書づくりを徹底する。

